

三ヶ島散策（歴史と文化を尋ねて）

野老澤の歴史をたのしむ会（担当Aグループ）

2022-10-27 報告者 山田 武

- ◇ 開催日 2022年10月20日（木） 天候 快晴
集合：午前9時 小手指駅南口階段下
解散：午後1時 早稲田大学校舎正面玄関
- ◇ 行程 西武バスに乗車⇒大日堂で下車⇒砂川遺跡公園⇒妙善院⇒中氷川神社
⇒早稲田大学所沢キャンパス（当初予定した金仙寺は取り止め）
- ◇ 参加者 36名（野老澤の歴史をたのしむ会24名、他サークル12名）
参加予定者は40名であったが、体調不良等で4名がキャンセル
- ◇ 配布資料 出発時①所沢市発行の「ウォーキングナビ北エリア版」
②参加者名簿（2班編成）③タイムスケジュール表
妙善院にて④寺院の歴史年表
中氷川神社にて⑤中氷川神社由緒など
- ◇ ガイド 三ヶ島地区に精通している佐藤八郎氏（Cグループ）をお願いした。
- ◇ 参加者一同の集合写真（妙善院の門前にて）
以下の写真は、小倉洋一氏と大舘徹氏に提供頂いた。



◇ 砂川遺跡公園

昭和41（1966）年と昭和48（1973）年に明治大学考古学研究室を中心に発掘調査が行われ、769点の石器等が出土した。この敷地は平成17（2005）年に所沢市に寄贈され公園となった、この遺跡は、所沢市の文化財に指定されており、この場所から発掘された「ナイフ型石器」は国の重要文化財に指定され、発掘調査を行った明治大学が所蔵している。



約2万年前の旧石器時代に先人たちが移動生活をしていたというこの場所に、私たちが立ったことにひと際感慨深いものがある。

公園内には「ハナシュクジャ（花縮砂、ショウガ科）」【右の写真】という白い花が沢山植えられている。この花は芳香を放ち、開花時期は8～10月である。



◇曹洞宗光輪山妙善院（三ヶ島幼稚園併設）

喜多濃住職のご厚意により仏間でお話を伺った後、坐禅道場に移動して坐禅体験をさせて頂いた。

本来ならば坐禅を行う際には、素足になり腕時計は外すなどの作法があるとのことだが、極めて略式をお許し頂き、足の悪い人は椅子を持って入場した。道場内の畳に上がる際には、状縁（じょうえん）



という敷居には足を触れず、坐蒲（ざふ）という黒い円形の布団に尻を乗せ、胡坐ではなく足は投げ出しても良いとのこと。目は閉じず背筋を伸ばして座るように言われ、鐘が3回鳴って坐禅が開始された。身構えていたら、和菓子（芋羊羹・どら焼き）とペットボトルのお茶が出され、食べなさいと言われたのには驚いた。食べきれない分を持ち帰り用の紙袋まで用意して頂く念の入れようだ。また、道場内では住職が「ハンドバン」と言う直径50cm位のスイス製の金属楽器を演奏して頂いた。得も言われぬ心が洗われるような音色にうっとりしてしまった。

仏間に戻ってから難しいお話は一切無しで、予定時間ピッタリに終わらせて頂き恐縮の限りであった。

◇移動風景



◇延喜式内「中氷川神社」

この神社は、通常は中に入ることができないが、今回は中宮司のご厚意で拝殿内に椅子までご用意頂き、お話を伺うことができた。

「氷川神社」と名が付く神社は東京の赤坂や川越など各地で見かけるが、「中氷川神社」の総本社は大宮にある「武蔵一の宮氷川神社」で、奥多摩町にある「奥氷川神社」との中間にあることに由来するとの説がある。

「三ヶ島」の地名は、開村当時は家数が少なく、村内には3カ所の小さい集落があるだけで、遠方から見るとあたかも原野の中に三つの小島が浮かんでいるように見えたことに由来すると伝えられている。裕福な村であったため、所沢と入間の両方から合併話があったとのこと。

拝殿でお話を伺った後、奥の本殿も見せて頂いた。本殿は一間社流造りで出来ており、側面や扉をはじめ柱や梁などに至るまで、龍や獅子などの細かな彫刻が施され、江戸時代の建築美を今に伝える貴重な文化財である。

また、所沢市指定文化財の「銅製三尊懸仏」は本殿内に安置されているが、拝謁することが出来ないとのこと。



お土産に「疫病退散」を祈願した「鳩うちわ頒布100年」記念品を頂戴し、感謝！

◇早稲田大学所沢キャンパス

校舎入り口の警備室前で一旦解散した後、約15名は学生食堂で昼食を摂った。

◇トトロの森20・21号地（番外編）

佐藤八郎氏の案内で希望者10数名が見学した。